

五十頁から八十三頁まで

み な み

全体に圍りの線は感じを新らしくさせました。角のつぶし加減も丁度の様に思はれます。第一頁は題が左によりすぎてゐるのではありますまいか。私は名と題と今少し近よせてほしいと思ひました。而し今考へますと無理がある様に思ひますのでとり消します。五十三頁の四號と五號とは三行あきのまゝ題丈を二行目に置き換へてみたいが如何でせうか。十四行組は全体として格好だと思ひました。この組み方をこの欄は原則にしたいと思はれました。上下のあきも異存ありません。

歌の數を編輯係で豫めおきめになつておけば五十七頁の如きことにはなりません。題を四號名を五號とすれば題の直下に名をおいて十四行組の二行あき十二首としてはどんなものでせう。(欲をいへば最後の行が少しつまる様ではあります)一頁に足らぬ歌は二段組にして半頁づゝ六首として今のまゝでもよろしいでせうが二段組は六號を甘く使はれま

すまいか。二十三字詰の二行あてとしますと十八行組三行アキでは半端になりますので十七行組二行アキとして半頁七首づゝとしては變なものになりませうかしら。見なければわかりませんが。六十四頁以下の二段組の散文は極よいと思ひます。六十三頁の六號はよいと思ひます。私は六號をもつと使つてみたい。それから出来るならカットも使ひたい。

目次は感じのよい甘いやり方と思ひましたが、の使ひ方がよくわかりません。

第九回會計決算報告(自大正三年六月至同年十一月)

一、収入金額 一二八、六八

内 譯

四七、九一 第一學期ヨリ繰越高
五六、七〇 賛助員四十八名分會費
二三、五一 會員百四十七名分會誌實費
〇〇、五六 預金利子

一、支出金額 七四、七四五

中村 芦 長谷川しま

一、大正元年度分(一名)

一、大正二年度分(一名)

一、大正三年度分(二七名)

白鳥 ひろ	山川はつの	鶴本 ヨチ
三輪田秀子	丸山 もと	堤 はな
佐津川ふみ	林 玉子	源 みい
藤枝さしの	津田 すゑ	渥美 竹恵
内田 末子	工藤 しげ	池袋 すが
野村 すゑ	土橋 おり	青山 貞
篠原みやの	江崎 やす	川崎 なつ
今泉 うた	堀尾 ごめ	小池 キヨ
有竹 はな	穂積 ギン	富岡 きぬ

(注意)

會費拂込に就きて

拜啓 今般本會は會員諸君の御便宜を計り振替貯金口座を利用致候事に相定め候就ては今後本會々費は

内 譯

五八、六五 會誌九號三七〇部印刷代
〇三、三六 會誌發送料
一〇、九六五文科卒業者懇親會へ寄附
〇一、七七 雜費

一、差引殘高 五三、九三五

右之通相違無之候也

大正三年十一月十六日

文科會々計係

會 費 領 收

一、明治四十四、大正元、二、三年度分(二名)

鹽 見 滿 重田 久子

一、大正元、二、三、四年度分(一名)

鈴澤いさを

一、大正元、二、三年度分(八名)

力石 きの 富坂 ゆき 紀志 みち
八尋 かめ 田川みどり 田上 竹子

館 つね子 藤尾 ゆき

一、大正二、三年度分(八名)

寺山 まつ 森山 まさ 佐々木 孝
上村 靜 三宅 ヨシ 水島 いく

該口座へ御拂込み相願度此段御通知申上候也尤も拂込方詳細は最寄の郵便局に御問ひ合せ下され度候尙左に口座番號並に加入者氏名申上候

東京貳壹五〇貳番 喜多見さゝ
東京女子高等師範學校内

入退會者 (大正三年八月より十月まで)

入會者

十五名

渥美 竹恵

安部 ふで

青木 貞

飯沼 しづ

池袋 すが

内田 する

工藤 しげ

小池 きよ

笹原 榮

篠原みやの

簡野 げい

土橋 おり

練木みさを

芳賀 晴

野村 する

退會者

一名

力石 きの

〇會員 動 靜

田上 竹子

山口縣佐波郡石田村へ移轉

富坂 ゆき

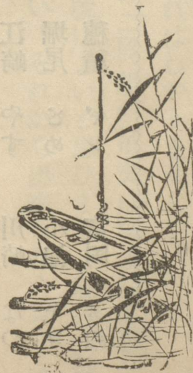
京都府立第一高女へ轉任

林 文子

廣島縣双三郡吉舎村吉舎へ移轉

藤枝さくの

和歌山縣橋本町實科高女へ轉任



茶溪秋月 (鹽谷岩陰)

溪、慶長中所、即神田川也。水道橋以東、崖高渚曲、老木槎枿、月中天心、則有山高水落石出之景。予呼之曰「小赤壁」。

研究

次 目

讀方教授の効果測定法

(國語教授の研究「其の一」)

日光旅行の地理的研究